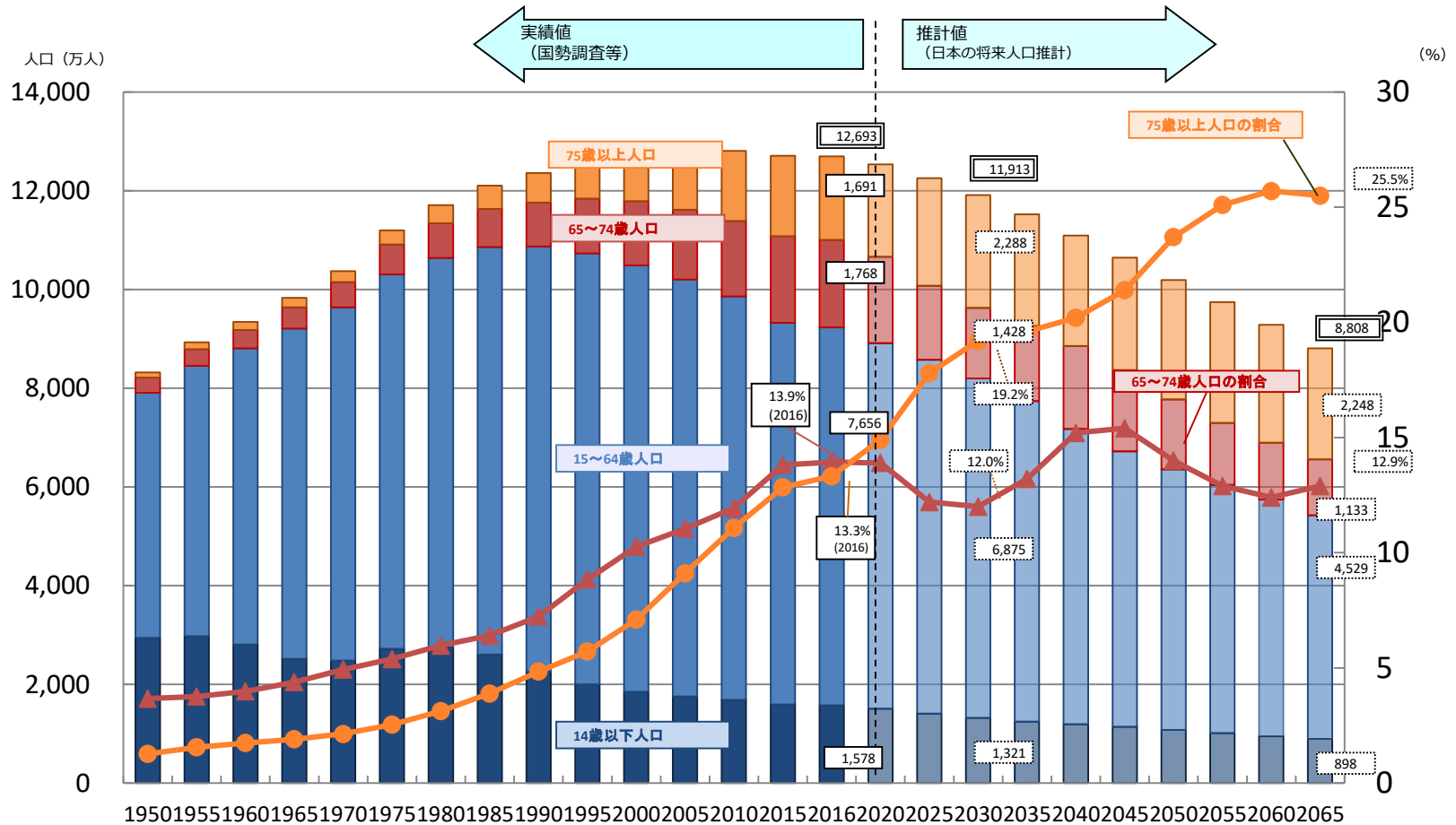


歯科医療提供体制等に関して当面の議論の進め方

総人口の推移

○ 今後、日本の総人口が減少に転じていくなか、高齢者（特に75歳以上の高齢者）の占める割合は増加し、現役世代の占める割合が減少する。

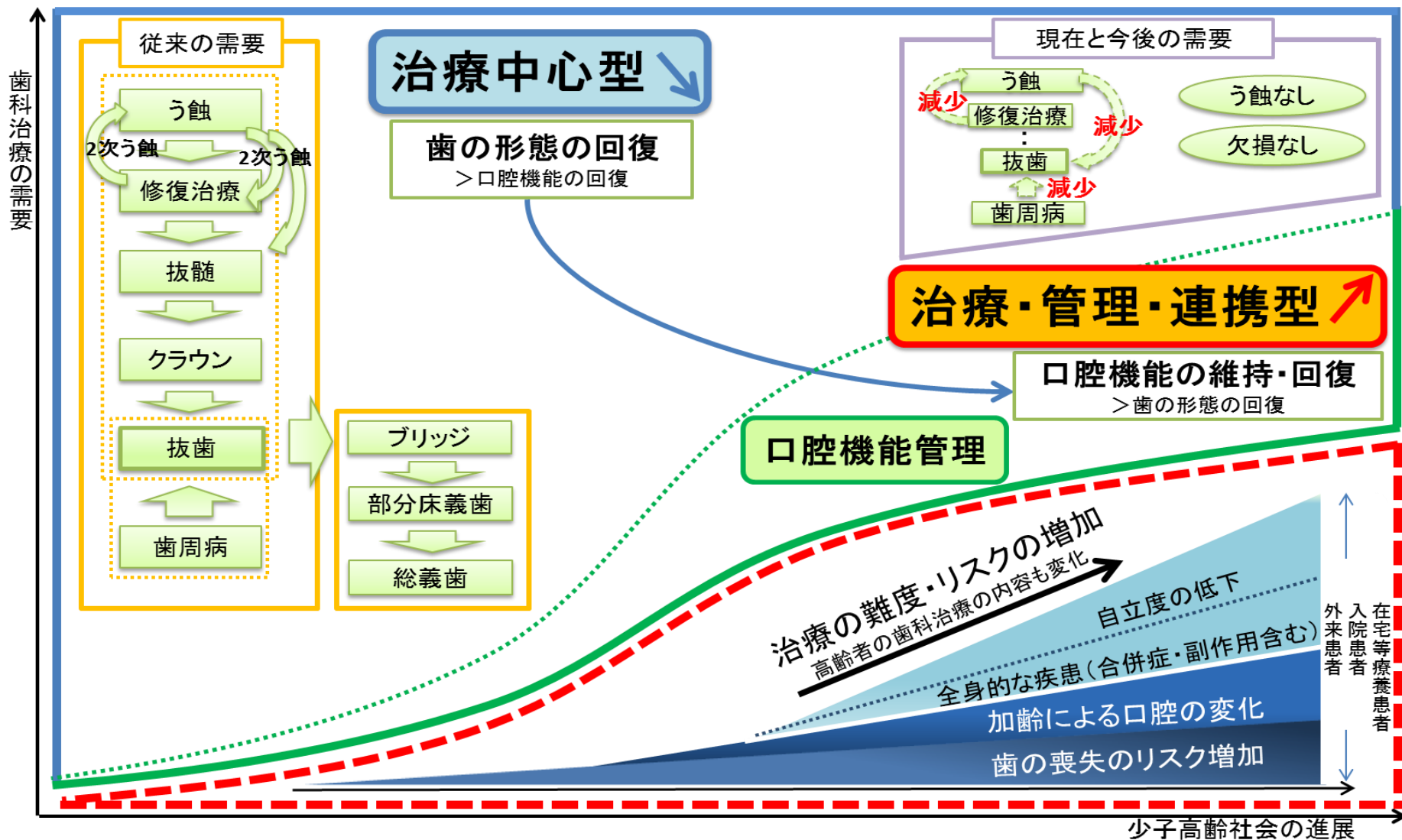


資料：2016年までは総務省統計局「国勢調査」および「人口推計」、2020年以降は国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口（平成29年4月推計）中位推計」

歯科治療の需要の将来予想(イメージ)

平成30年度診療報酬改定資料一部改編

○ 人口構成の変化や、歯科疾患罹患状況の変化に伴い、歯の形態の回復を主体としたこれまでの「治療中心型」の歯科治療だけではなく、全身的な疾患の状況などもふまえ、関係者と連携しつつ患者個々の状態に応じた口腔機能の維持・回復(獲得)をめざす「治療・管理・連携型」の歯科治療の必要性が増すと予想される。



健康寿命の延伸

← 予防・健康づくりへの歯科保健医療の寄与

歯科医療機関の役割分担・機能分化、
かかりつけ歯科医の機能・役割

歯科疾患の予防・重症化予防、
ライフステージに応じた口腔機能管理



QOLの向上

← 口腔機能(食べる機能)の維持・回復・向上

(1) 総論

○少子高齢化による人口構造の変化や医療・介護を取り巻くニーズの変化など、近年の歯科保健医療を取り巻く状況の変化を踏まえた歯科保健医療提供のあるべき姿等について、平成29年12月に「歯科保健医療ビジョン」がまとめられた。その後、令和元年12月全世代型社会保障会議の報告書中間報告において、高齢化による医療の需要拡大への対応、生産年齢人口が減少する中での地域医療の確保、健康寿命の延伸へ向けた予防・健康づくりの強化等の課題をふまえた地域包括ケアシステムの構築、地域共生社会の実現に向けた取組を進めることが重要とされていることから、これらも踏まえた歯科保健医療の提供の在り方について、検討が必要ではないか。

(2) 歯科医療機関間の役割分担・機能分化について

- 歯科医療機関間の役割分担・機能分化については、外来医療におけるかかりつけ歯科医の機能を明確化する観点から、病院歯科が果たすべき機能や病院歯科の設置に関する議論を行うべき、とされている。
- 歯科医療の提供状況は、その内容によって地域差が生じていることが推測されることから、NDBデータ等を活用し、地域偏在もふまえて検討することが必要ではないか。
- 病院歯科の設置状況は地域により大きく偏りがある一方で、これまで、各地域における病院歯科の必要数や病院に勤務する歯科医師の働き方を改善するために必要な取組等に関する議論は行われていないことから、都道府県における医療計画等において具体的な検討が可能となるよう、病院歯科と歯科診療所の役割分担及びかかりつけ歯科医のもつべき機能を明確化した上で、病院歯科の必要数等について検討することが必要ではないか。
- 新型コロナウイルス感染症のような新興感染症の発生時の歯科医療提供体制については、これまで議論されていないことから、新興感染症発生時の歯科医療機関の役割分担と歯科医療提供体制についても検討が必要ではないか。

これからの社会の変化を見据え、ライフステージに応じた歯科保健医療の目指す方向性とそれを実現するための歯科保健医療提供体制の在り方について、歯科医療機関間の機能の明確化も含め、具体的な検討が必要ではないか。

(3) 歯科専門職の需給等について

- 歯科医師の需給に関しては、「歯科医師の資質向上等に関する検討会 歯科医師の需給問題に関するワーキンググループ」において議論されたが、最終的な方向性は示されていない。
- 従来から歯科医師数は過剰とされている一方で、近年、歯科保健医療に対するニーズが増加していることや、歯科医師の地域偏在も指摘され始めていることから、歯科医療の提供に関するNDBデータを活用した研究等を踏まえ、改めて歯科医師の需給に関する議論を行うこととしてはどうか。
- 歯科衛生士については、在宅歯科医療における訪問口腔衛生指導や入院患者の口腔管理等において、その役割が注目されているが、多くが女性であることからライフイベント等による離職も多く、人材確保が課題となっている。各地域における歯科衛生士の必要数については、これまで具体的な議論が行われていないことから、歯科保健医療提供体制の在り方に関する議論を踏まえ、歯科衛生士の需給についても検討することが必要ではないか。
- 歯科技工士は、口腔機能の回復において重要な役割を担っており、高齢社会が進展するなかで、その役割は重要になっているが、近年、養成施設及び入学者数の減少と離職者の増加により、就業歯科技工士の高齢化が進んでおり、人材確保が課題となっている。その背景には、養成過程や、職務内容への不安、歯科技工所における職場環境や長時間労働などの労働環境の問題など、種々の要因があり、「歯科技工士の養成・確保に関する検討会報告書」において、今後の方向性が示され、関連する厚生労働科学研究等も進められているところである。歯科技工士の必要数等についての具体的な議論は、本検討会での議論を踏まえつつ、専門的に検討を進める場で検討することとしてはどうか。
- より質の高い歯科医療を提供するために、歯科専門職種間の連携を進めるための方策について検討することが必要ではないか。



これからの歯科保健医療提供体制の在り方を踏まえた歯科医師等の需給に関する検討が必要ではないか。

(歯科医療提供体制について)

- ① 歯科疾患の予防、重症化予防の推進とかかりつけ歯科医の役割
- ② 歯科医療機関の機能分化と連携、かかりつけ歯科医の機能
- ③ 地域包括ケアシステムの構築における歯科の役割(食べる機能の維持・回復への支援)
他の関係職種(医療・介護)との連携、要介護高齢者等への在宅歯科医療の推進等
- ④ 地域における障害者(障害児)への歯科医療提供体制 等

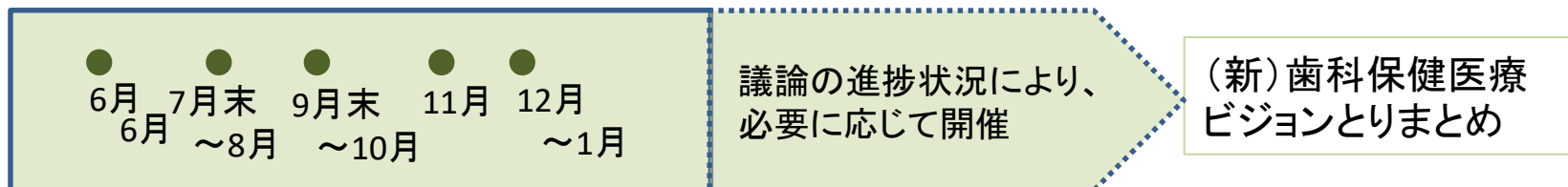
(歯科専門職の需給について)

- ⑤ 今後の歯科医療のニーズを踏まえた歯科医師の需給
- ⑥ 今後の歯科衛生士の業務の在り方と需給

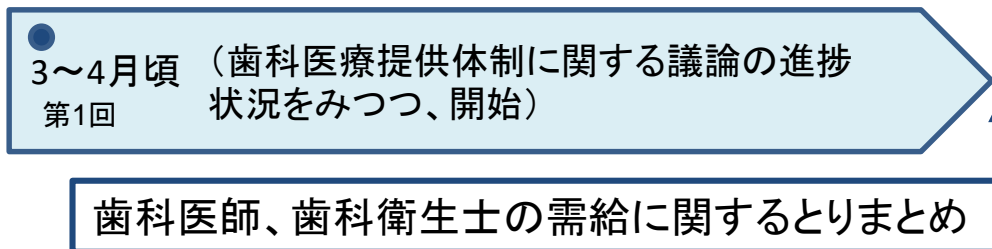
※ 歯科技工士の業務のあり方と需給については、別途専門的に議論を行う場で検討

令和3年度			令和4年度		
4～7月	8～11月	12月、1～3月	4～7月	8～11月	12月、1～3月

＜歯科医療提供体制に関する議論＞



＜歯科医師、歯科衛生士の需給に関する議論＞



参考

＜歯科技工士の業務のあり方等に関する議論＞

